



出羽島

重要伝統的建造物群保存地区

TEBA-JIMA-MAP

散策絵地図



QRコードを読み込んで
カメラを表紙の
写真にかざしてみよう！
『牟岐町』が
よくわかるよ！



牟岐町



引き継がれてきた島の歴史

漁業と共に歩んだ暮らし

出羽島は江戸時代から漁業で栄え、幕末の民家を最古として明治から昭和初期にかけての建物が港を囲むように建てられており、伝統的な漁村集落の景観が現在も良く残っています。

集落を巡る幅の狭い通りの両側には、伝統的建築物の土庇が連続し、建物が両脇から通りを包み込むような、温かく、どこか懐かしい風景が広がります。



洲鼻地区西部の町並み

通りから浜・港側へは、「アワエ」と呼ばれる建物と建物の間を走る細い路地が通路として利用されています。特に奥の坊と呼ばれる地区では、出羽島への本格的な移住初期に形成されたと考えられる地割が良く残っています。



奥の坊のアワエ

また、島内には石積み、石階段、石組水路や井戸などにおいて、浜で採取された石を利用しているものが見られます。

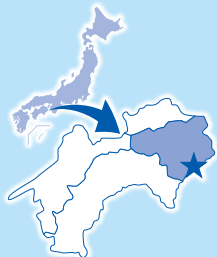


これらの伝統的な建物・地割や、自然石材を用いた工作物などは、島の土地・環境を最大限活用し、たくましく生きてきた人々の生活の証であり、現在も力強く息づいています。

出羽島は時間の流れが違います。
島の時間は島民によって守られています。
あなたも、島を大切にする島民になってください。

島民の心得

- 1 島の方のプライバシーを守ってください。
- 2 島は静かです。大きな声は出さないで。
- 3 通路は狭いです。譲り合いながら通行してください。
- 4 島の方の許可なく家屋に立ち入らないでください。
- 5 断りなく、人物及び家屋等の写真撮影は、ご遠慮ください。
- 6 水着での移動はご遠慮ください。
- 7 ゴミは持ち帰ってください。
- 8 公衆トイレは一箇所です。大切に利用してください。
- 9 伝統的な木造家屋が残っています。火気の取り扱いにご注意ください。
- 10 交通手段は定期船のみです。出航時間をご確認ください。
- 11 診療所はありますが、毎日ではありません。薬などは事前に準備が必要です。



出羽島は島民が寄り添い、
島を大切に守っています。
この島には守るべきルールがあります。
島を大切に考えて頂ける人をお待ちしています。



MUGIZINE



出羽島おいでっぱ



牟岐人 info



町 PV 動画

お問い合わせ先

牟岐町役場産業課 〒775-8570
徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村7-4
TEL：0884-72-3419
牟岐町観光協会 TEL/FAX：0884-72-0065
Mail：info@mugi-kankou.com



牟岐大島から昇る朝日と四国産地に沈む夕日は、出羽島でしか味わえない眺望です。

室戸阿南海岸国定公園のほぼ中央に位置し、太平洋の荒波と四国産地の山々が融合する景色が望めます。東に見える大島・津島の雄大な眺望は一見の価値があります。



甘鯛やレンコダイの温かい出汁にそうめんをつけて食べる島そうめんは島の郷土料理です。

山村雪太郎氏が阿波沚（あわはえ）を発見した功績により、カツオ漁が隆盛を極め、阿波の出羽島として名前を馳せました。現在は沿岸漁業が主であり、なかでも、はえ縄漁で獲れた



4～6月の時期に堤防や港のあちらこちらで天草を干しています。丁寧にゴミを取り、天日干しされた天草は寒天ゼリーやトコロテンとして人気があります。また、徳島県为天草生産量の約2割を出羽島産が占めています。



民宿 まるわ

出羽島の住民に
なったような感覚を
味わえる民宿

キッチン自由に使用できます。（生活必需品はだいたい揃っています。）10人程度まで宿泊できます。
チェックイン・アウトは連絡船運行時間内であれば自由です。
TEL：0884-72-1484

民泊 うたタネ

漁師が営む
島時間をゆっくり
感じれるお宿



キッチン、洗濯機など自由に使えます。
7人程度宿泊できます。日帰りでもご利用できます。
チェックイン・アウトは連絡船運行時間内であれば自由です。
TEL：090-2233-4767



出羽島
ガイドウォーク

重要伝統的建造物群
保存地区を
ガイドさんと歩く

料金：1名～2名 1,500円・3名以上は1名につき600円
所要時間／約2時間（希望時間にも対応します。）
TEL：0884-72-0065（牟岐町観光協会）
Mail：info@mugi-kankou.com（牟岐町観光協会）
牟岐町ボランティアガイドの会

はといえ
波止の家

古民家を改修した
交流施設



港近くにある古民家を改修した島の交流施設で、島内の唯一解放されたミセ造りの伝統家屋であり、建物の展示と休憩所を兼ねています。藍染めの暖簾が出ているときは、休憩できます。ぜひお立ち寄りください。



100年フードに認定

島そうめん

島そうめんは出羽島において遅くとも戦前の頃から日常的・婚礼や船下ろしなどの祝いの席で提供される地域の郷土料理である。そうめんを皿に盛り付け、長ネギ、かまぼこ、錦糸卵を添えて飾り付ける。甘辛く煮付けた魚の煮汁を使用したつゆを入れた器をそうめんの皿の中心に置く。魚は延縄漁などで獲られたレンコダイ（キダイ）を使用するのが主であり、そうめん、煮汁、煮魚が別皿で提供される。

水揚げされた魚を無駄にせず地域の限りある資源をとりこぼさず利用し、いただくという島民の姿勢から工夫されており、米不足によりそうめんが配給された戦後の食糧難の時代を乗り越えてきた素朴だが味わいのある料理である。島民のたくましさを表象するものとして次世代へ伝えたい。

詳しくはこちらをご覧ください。→



※お食事をご希望の方は
2週間前までに牟岐町観光協会まで
ご予約が必要です。

100年フード宣言

「大島」

「津島」

て ば じま

出羽島

散策絵地図

「重要伝統的建造物群保存地区」
「未来に残したい漁業・漁村の歴史文化百選」

あわはえ
阿波江発見者功績の碑、
石積み防波堤／水産庁選定

標高96.6mの山頂にある
「出羽島灯台」38km失
まで光が届きます。

国指定
天然記念物

海岸に堆積した丸石に守られた
「大池」には、1億4千万年前に繁栄
した、貴重な藻類「ミラマモリカ」
国内で唯一、自生しています。

観光遊歩道
西回りコース
船着場から灯台
まで1.8km

超eco!

島には、今も「自動車」が無い
ため、歩行者専用の「みち」しかありま
せん。そのため、物資の運搬に欠かせない
のが、木コ車（手押し車）です。昔、女性にとっ
て重労働だった、共同
井戸からの水汲みに、
大変役に立っていました。

意外と
カワイイ

出羽島の民家の特長として、

「ミセ造り（蔀帳）」があります。ミセとは、
折りたたみ式の板戸（雨戸）で、上ミセと下ミセに分か
れています。下ミセは、縁台や魚具の手入れをする、
作業場として日常的に使われています。

感動的な機能美です。

観栄寺の地震・
津波の碑（新・旧碑）

嘉永7年（1854年）
に出羽島を襲った地震、
津波の際島民が山上へ
避難し難を逃れたこと
を神仙に感謝する内容
が記された石碑が
あります。

最盛期には、山頂まで
階段畑がありました。

島の気候は、さわめて温暖です。
真冬に「エンドウ」の花が咲き、
「ハイビスカス」や「バラコウ」などの
亜熱帯植物も、多く自生しています。

島の貴重な水源地だった「共同井戸」
には、町指定天然記念物の、
「カニグイ（オオウナギ）」が
生息しています。

港を望めるカブト
「カニグイ」

「ワシントンヤシ」

「出羽小学校跡地」
明治15年に創立された小学校も、
現在では災害時の避難場所にな
っています。

「ハリポート」

昭和29年から41年まで、
自家発電で灯りしていました。

「阿波江発見者
功績の碑」

「石積み防波堤（堤防）」
丸石などを建材として、
明治4年頃に構築
された、歴史的な遺産です。

観光遊歩道「東回りコース」は
閉鎖のため、現在通行止めです！

観栄寺

明治期から昭和初期の建物も多く、
これだけまとまった漁村集落が残存する
例は、大変珍しいといわれています。

「野口雨情の歌碑」

「七つの子」赤い靴」
などで知られる童謡詩人
「野口雨情」が出羽島を訪れたのは、
昭和11年の2月でした。
雨情が残した15節の
歌は、「年々みなと節」
として、今も広く
親しまれています。

「出羽神社」
出羽島一里、島にや
大池蛇の穴へ」

「出羽島診療所」
横には「蛭子神社」

「番屋」
本格的に人が移り住む
前から「島番」として、番人が
置かれていました。

連絡船「大生れ」
年々の町と出羽島を結ぶ連絡船の
大正末期頃までは、
郵便船が、一日
一往復していました。

「波止の家」古民家を改修
した交流施設です。

※藍染の暖簾が出ているときは
誰かいるかも。声を掛けてみてください！

「すばな（洲鼻）」
干潮時には、丸石が波で
打ち寄せられます。

絵地図／小部 博正